

国語 1次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一ア	41.6%		45.5%		<p>出典は〔文章Ⅰ〕が堀江敏幸『柳生但馬守宗矩』、〔文章Ⅱ〕はブレイディみかこの『他者の靴を履く アナーキック・エンバシーの すすめ』による。前者は剣豪の話をするのが大好きな初老の先生と子供たちの物語。ある日クラスのひとりの生徒が交通事故で怪我をしてしまい、片腕の手から先を失ってしまう。その生徒は冬でも半袖で過ごすような元気な子だった。一方、先生は腕に傷を持っており、それを隠すためなのか常に長袖のシャツを着ていた。しかし、先生はその生徒がまだ教室に復帰する前に半袖のシャツを着て現れ、以前のように剣豪の話をするのだった——。以上が〔文章Ⅰ〕の概略である。一方、〔文章Ⅱ〕はその物語を補足／解説する役割として構想した。自分とは異なる他者に対する能力としての共感である「エンバシー」という概念を、いわゆる感情ベースの「シンバシー」と対比する形で提示し、〔文章Ⅰ〕における先生の行動についての理解を中心として作問を行った。</p> <p>問一の漢字は㊦「訓話」が「君話」、㊧「原型」が「原形」、㊨「講談」が「口談」などの誤答があった。どれも受験者正答率が50パーセントを切っているものなので、語彙の意味をしっかりと踏まえて解答することを心がけてほしい。</p> <p>問二は㊩の「噛んで含める」のニュアンスが選びづらかったかもしれない。「わかりやすいように丁寧に説明する」が正しい意味である。</p> <p>問四は剣豪の話をする先生とそれを聞く生徒の互いの気持ちが一致していたという内容。受験者と合格者の差が大きい問題でもあった。</p> <p>問五は先生の心情については押さえられている解答が多かった。一方、「剣豪であることを見せたかった／考えさせたかった」「見えない剣の軌道を再現し、わかりやすく生徒に伝えよう」といった誤答も見られた。先生が剣豪かどうかは推測の域を出ないので、事実と仮説（噂）の水準をしっかりと線引きして解答したい。</p> <p>問七は怪我をした子の状況について生徒たちにきちんと説明したいという先生の気持ちを問う問題。問四同様に受験者と合格者の差が大きかった。</p> <p>問八(1)、「本文中の表現を用いて」と問題には指示があったが、自分で文章を作って解答しているものが見られた。</p> <p>問十、本文に「恐れと期待、不安と好奇心とが交錯する」とあるので、その要素を言い換えている選択肢を吟味したい。</p> <p>問十三、イは正答率が高かった一方、ウは伸び悩んだ。語りという観点はわかりづらい部分があるので難しかったのかもしれない。消去法も使って解きたいところである。</p> <p>問十五(1) ㊱怪我をした生徒に対してこれまで通りの接し方をしたいという気持ち、㊲彼を自然に教室に迎え入れたいという気持ち、というのが解答のポイントであったが、方向性がズレている解答も多かった。</p> <p>問十五(2) クラスの生徒の雰囲気や和ませるために剣豪の話をしたという解答がこちらでも多かった。傍線部に引っ張られてしまった面もあるかもしれない。先生が半袖のシャツを着てきたことが、怪我をした生徒が半袖のシャツを好んで着ていたことと対応する形になっていることを理解したうえで説明したい。彼を今までと同じような状況で受け入れたいと先生は考えたからこそ、半袖のシャツを着て剣豪の話をしたのである。それを〔文章Ⅱ〕における「エンバシー」とリンクさせて考えられるかというのが、問十五の狙いであった。また本学園／国語科としては、自分とは異なる立場の人に対する共感力を持ってほしいというメッセージも込めている。論述問題については漢字で書くべきところを平仮名で書いている、誤字や未熟な表現をしているといったものも見られた。内容だけでなく表現にも留意したいところである。</p> <p>おそらく〔文章Ⅰ〕の子供たちは小学生か中学1年生程度と考えられるので、受験生は彼らの視点に同一化して作品を読んだのではないだろうか。クラスの生徒のことも先生は大切に考えていたと思われるが、不在の生徒＝怪我をした生徒との関係性を中心に読解してほしかった。</p> <p>対策としては情報処理をしっかりすることが第一。小説であれば出来事（いつ、どこで誰が何をしたのかなど）を整理しよう。それに対して登場人物がどう思ったかなどの心理面も押さえたい。また、物語の全体像を捉えることも大切である。「誰がどうする物語」「誰がどうなる物語」など、一文要約的にまとめる癖をつけると読解力のアップにつながるはず。作品中の剣豪の話ではないが、さまざまな物語に触れ、その原型を意識的／無意識的に身につけていくことも大切である。活字の本だけでなく、漫画や映画、ゲームなどもその要素を持っている。</p> <p>論述問題については苦手意識を持っている受験生も多いかもしれないが、問十五の得点率を見ると部分点がかかり与えられていることに気づくだろう。あきらめずにチャレンジする姿勢を大切にしていってほしい。</p> <p>漢字や語彙といった基本的な能力も大切である。これは普段からさまざまな文章に触れるなど、日常的な積み重ねが大切になってくるので、ぜひ意識して力を伸ばしてほしい。</p>
問一イ	41.6%		42.9%		
問一ウ	80.5%		84.4%		
問一エ	83.2%		87.0%		
問一オ	78.9%		85.7%		
問一カ	78.4%		88.3%		
問一キ	72.6%		76.6%		
問一ク	68.4%		72.7%		
問一ケ	93.7%		98.7%		
問一コ	40.0%		45.5%		
問二A	77.4%		84.4%		
問二B	57.4%		59.7%		
問二C	53.2%		50.6%		
問二D	38.4%		40.3%		
問二E	57.4%		63.6%		
問三	42.1%		46.8%		
問四	67.9%		77.9%		
問五	0.0%	73.2%	0.0%	87.0%	
問六	54.7%		59.7%		
問七	57.9%		74.0%		
問八1	14.7%	6.3%	22.1%	6.5%	
問八2	60.0%		70.1%		
問九	47.4%		59.7%		
問十	40.0%		49.4%		
問十一	70.5%		81.8%		
問十二	72.6%		80.5%		
問十三	63.2%	34.7%	74.0%	26.0%	
問十四	14.7%	73.7%	20.8%	74.0%	
問十五1	0.5%	77.9%	1.3%	81.8%	
問十五2	1.1%	58.4%	1.3%	58.4%	

国語 2次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一ア	85.0%		91.5%		出典：【Ⅰ】「シャーロック・ホームズの思考術」マリア・コニコヴァ著 日暮雅通訳 【Ⅱ】「シャーロック・ホームズの帰還」コナン・ドイル著 駒月雅子訳 問一～四は漢字、語句、文の接続に関する設問であり、基本的な語彙力の確認となる。 問一 漢字の書き取りは全体的によくできていた。イ始終やウ検討などの語句の書き取りに不正確な解答が目立った。 問二 慣用句の問題は全体的によくできていた。漢字の間違いによる惜しいものも散見した。 問三 比喩的語句や抽象語の意味を文脈判断で適合させる問題であった。「内省」の捉え方に苦戦したと思われる。 問四 接続に関する問題であった。比較的簡単であり、5つの選択肢から4つを選ぶパターンであったのでよくできていた。 問五以降は内容の読解に関する問題となる。【Ⅰ】と【Ⅱ】の文章を交互に読み合わせていくことも設問によっては必要な作業であり、文章をいかに早く読み、かつ正確に情報を処理していくことが求められる。言語を的確に情報処理していく力の差で、得点が大きく開いたように感じる。 問五、問十B、問十一、問十二は理由説明の問題であり、問六、問十Aは内容説明の問題であった。どちらの設問も解くにあたり、すばやく本文に即して読むことと、本文から解答の根拠となる箇所を的確に把握することが重要となる。 問十のA「幸運」の意味を本文中から捉えている解答が少なく、辞書的な意味で「幸運」の説明をしている解答が多かった。B「幸運」の理由を説明するものであり、消去法との関連に気付くか否かで得点に差が出た。なお、この問題の解答が問十五の地図作成のヒントとなっている。 問八、問九、問十三は「換言」の問題である。具体的なものを抽象化したり、抽象的な部分を具体化したり、また、【Ⅰ】と【Ⅱ】の文章を交互に読み合わせていくことが求められた。内容を整理して読むことと得点が比例していた。 問十四は内容全体から要点を抽出する問題であった。傍線部がないため、文章のどこに解答の根拠を求めるかの読解分野と、内容を字数に合わせて表現していく言語処理の分野がポイントとなる。七十字という長めの記述なので、主格と述部の適合性や、重複表現の有無、接続詞の的確な使用などにも配慮が求められる。時間の関係であろうか、単に本文を抜き出した解答が多かった。 問十五は文章を整理する、情報を的確に整理する、文章を図式化するという問題であった。この問いがあることを試験の始まりの段階で把握した受験生は、本文を読む際、学校周辺の「座標」を意識することができたと思われる。フォーマットに示されている二つの街道の意味と方角の関係も容易に理解できたであろう。情報の整理において時間不足からか、中途半端な作図であったり、この問題までたどり着けなかった受験生も多いた。
問一イ	61.3%		71.7%		
問一ウ	55.4%		58.7%		
問一エ	75.5%		85.2%		
問一オ	90.9%		96.0%		
問二W	90.7%		92.4%		
問二X	66.2%		70.9%		
問二Y	88.2%		89.7%		
問二Z	86.5%		89.7%		
問三a	51.7%		59.2%		
問三b	82.4%		86.5%		
問三c	93.6%		93.7%		
問三d	71.1%		75.3%		
問四1	93.9%		96.9%		
問四2	84.3%		90.6%		
問四3	69.4%		75.8%		
問四4	88.0%		92.4%		
問五	58.3%		65.0%		
問六	67.4%		78.9%		
問七	6.4%	4.7%	11.2%	6.3%	
問八	16.9%	1.0%	20.6%	1.3%	
問九	53.2%		62.3%		
問十A	0.2%	53.2%	0.4%	61.9%	
問十B	2.2%	32.4%	2.7%	40.8%	
問十一	87.7%		91.5%		
問十二	51.7%	1.0%	67.3%	0.9%	
問十三	56.6%		65.9%		
問十四	1.0%	78.7%	1.3%	86.1%	
問十五	3.4%	55.1%	4.9%	63.7%	

国語 3次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一ア	64.8%		78.0%		<p>出典は伊藤亜紗「まず閉じこもることから 身体と情報環世界」（『情報環世界 身体とA Iの間であそぶガイドブック』所収）による。</p> <p>問一～三は漢字、語意、文の接続に関する問題であり、基礎的な語彙力を確認する問題である。問一の漢字問題は全体的に正答率が高かったが、㊦「通例」では「痛」や「礼、令」、㊧「習慣」では「週間」などの間違いが多数見受けられた。問二の語意問題も全体的に正答率が高かったが、Cの「キュー」では誤答の「指令」が少し紛らわしかったかもしれない。問三の文の接続に関する問題も概ね正答率が高かった。前後の文の関係性に着目することを心がけてほしい。</p> <p>問四は「その能力」が書くことと書いたものを見ることを連動させる能力を指しているということを理解している必要がある問題であった。Iは、「～という行為。」に繋がらなかったり、「描」という漢字を間違えてしまっていたり、惜しい解答が多かった。IIは、「比喩的な表現」や「これより前の部分から」といった指定があったことから正答率は高かったものと思われる。</p> <p>問五は比喩表現としての「はとばすツアー」の意味と、「なっっちゃった」のネガティブなニュアンスを理解できているかどうかポイントとなった。Iは、自身が知覚した情報ではなく他者の合図に従って行動しなければならぬことに不自由さや戸惑いを感じている西島玲那さんの心情を理解することができていればそれほど難しくなかったと思われる。IIは、筆者の分析が述べられている個所を探す問題。「～と整理することができます」の部分に着目できたかどうかポイントである。</p> <p>問六は「主体」について本文の内容に沿って思考することができるかどうかを問うた。受験者正答率と合格者正答率とで約22%の差があり、選択肢問題の中では一番差が大きかった。自分の感覚に頼らず本文に基づいて理解を深める習慣が身についているかどうかは、受験国語において非常に重要な要素であると思われる。</p> <p>問十は【本文】の全体的な理解を確認する問題であった。西島玲那さんのエピソードと「環世界」の問題との関連性を上手く整理できていたかどうかポイントであった。</p>
問一イ	85.6%		92.0%		
問一ウ	85.2%		92.0%		
問一エ	80.1%		92.0%		
問一オ	91.7%		94.0%		
問一カ	84.3%		96.0%		
問一キ	72.2%		82.0%		
問一ク	81.9%		88.0%		
問二a	58.3%		74.0%		
問二b	60.6%		78.0%		
問二c	38.4%		42.0%		
問三1	64.8%		64.0%		
問三2	78.7%		86.0%		
問三3	70.4%		82.0%		
問三4	31.5%		40.0%		
問三5	99.1%		100.0%		
問四1	44.0%	28.2%	60.0%	24.0%	
問四2	75.0%		84.0%		
問五1	50.0%	44.0%	66.0%	32.0%	
問五2	66.2%		84.0%		
問六	30.1%		52.0%		
問七	30.6%		24.0%		
問八	38.0%		46.0%		
問九	0.9%	9.7%	2.0%	20.0%	
問十	45.4%		54.0%		
問十一	16.2%		18.0%		
問十二1	13.9%	0.5%	20.0%	0.0%	
問十二2	44.0%		56.0%		
問十三1A	71.3%		80.0%		
問十三1B	68.5%		90.0%		
問十三2	55.1%		74.0%		
問十三3	44.4%		66.0%		
問十四1	35.6%	25.0%	60.0%	24.0%	
問十四2	52.3%		62.0%		
問十四3	10.2%	41.2%	16.0%	50.0%	